



各 位

N P O 放送批評懇談会

発表!! 第二弾 第 60 回ギャラクシー賞

放送批評懇談会 60 周年記念賞

平素は放送批評懇談会にご理解とご支援をいただきありがとうございます。
テレビ、ラジオ、CMの作品、制作者、関係者に贈る賞として 60 年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」。

放送批評懇談会は今年、創立 60 周年を迎えます。
60 周年を記念して、「放送批評懇談会 60 周年記念賞」を選出いたしました。
貴誌／紙、貴メディアでのご紹介をお願いいたします。

贈賞式は、5 月 31 日（水）に開催予定です。
贈賞式は放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネルでライブ配信を行います。

第 60 回ギャラクシー賞贈賞式 YouTube ライブ配信

日時：5 月 31 日（水）午後 3 時～5 時 30 分（15:00-17:30）

司会：ジョン・カビラ 長野智子

放送批評懇談会 YouTube 公式チャンネル
<https://www.youtube.com/HOUKONchannel>



※上記 YouTube 公式チャンネルでは、過去のギャラクシー賞受賞ドキュメンタリー作品の再生リストを掲載中です。



放送批評懇談会 60 周年記念賞 タモリ

放送批評懇談会 60 周年記念賞：選考委員会

〔委員長〕音 好宏 〔選考委員〕川喜田 尚 藤田真文 出田幸彦 桜井聖子 古川柳子 家田利一 茅原良平

<選評>

1970 年代のデビュー以来、鋭い批評性に裏打ちされた知的な笑いは変わることがありません。その唯一無二の批評性は、今の時代においてこそ必要とされているものです。さらに、その一貫して自由で柔軟な生き方は、タレントという枠を越えた絶大な存在感を示し、多くの人々から支持されてきました。半世紀近く常にテレビやラジオの第一線で活躍してきた放送界への多大な貢献は、当会の 60 年におよぶ批評活動を記念して贈る賞にまさにふさわしく、心からの敬意を表するものです。

<プロフィール>

1945 年 8 月 22 日、福岡県福岡市に生まれる。76 年メディアデビュー。「オールナイトニッポン」（ニッポン放送）、「今夜は最高！」（日本テレビ）などを経て、82 年「森田一義アワー 笑っていいとも！」（フジテレビ）、「タモリ倶楽部」（テレビ朝日）がスタート、87 年より「ミュージックステーション」（テレビ朝日）の総合司会を務める。ほか、「世にも奇妙な物語」（フジテレビ）、「タモリの音楽は世界だ！」（テレビ東京）、「タモリのポキャブラ天国」（フジテレビ）、「ブラタモリ」（NHK）、「タモリステーション」（テレビ朝日）など数多くの冠番組、出演番組を持つ。生放送単独司会放送回数でギネス・ワールド・レコーズを幾度も更新し、2021 年には同一司会者による生放送音楽番組最長記録も認定された。第 2 回「伊丹十三賞」、第 62 回「菊池寛賞」、第 68 回「日本放送協会放送文化賞」などを受賞。



<60 周年記念賞とは>

放送批評懇談会は 1963 年の設立時に「優秀なる企画並びに作品の発掘および推奨」に取り組むべき事業に掲げ、以来 60 年にわたりテレビ・ラジオの優秀作品、優秀個人、優秀団体を顕彰し、放送の批評を積み重ねてきました。特に、年間を通じた日常的な批評を当会活動の基礎に置いています。「放送批評懇談会 60 周年記念賞」は、そのような理念のもと 60 年間たゆまず続けてきた当会活動を記念して創設したものです。長年にわたり放送文化、放送業界で大きな功績のあった作り手、出演者、組織、番組等を顕彰の対象として選出することを目的に、放送批評懇談会正会員の推薦を募り、常務理事会と選奨事業委員会委員長で構成する選考委員会での厳正なる審査を経て同賞の受賞者を決定しました。



■参考：過去の主な周年賞、記念賞と受賞者／敬称略

1992 年度（30 周年）「小谷正一記念賞」 牛山純一

1997 年度（35 周年）「放送批評懇談会 35 周年記念 城戸又一賞」 田原総一郎

2002 年度（40 周年）「岩田糸子賞」黒柳徹子

「放送批評懇談会創立 40 周年記念賞」ドラマの TBS

2007 年度（45 周年）「ギャラクシー賞 45 周年記念賞」永 六輔

2012 年度（50 周年）「放送批評懇談会 50 周年記念賞」久米 宏、山田太一、テレビマンユニオン、
「NNN ドキュメント」、「おかあさんといっしょ」

2017 年度（55 周年）「放送批評懇談会 55 周年記念賞」倉本 聡

放送批評懇談会60周年記念賞

タモリ

志賀信夫賞

岡崎 栄

フロンティア賞

「FIFA ワールドカップ カタール 2022」生中継

AbemaTV テレビ朝日

テレビ部門

連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」

日本放送協会

BS1スペシャル「正義の行方～飯塚事件 30年後の迷宮～」

日本放送協会

チャンネル4「人生の湯～黄昏時のぬくもり～」

テレビ信州

OTV報道スペシャル「水どう宝」

沖縄テレビ放送

ウムイツむぐ～着物が語る“やんばるの戦”～

琉球放送

報道1930「激震・旧統一教会と日本政治 問われる政治との距離感は」

BS-TBS

夜ドラ「あなたのブツが、ここに」

日本放送協会

声は届くのか～秘蔵フィルムが映し出す1969 新宿西口地下広場～

日本放送協会 \ film&media

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」

日本放送協会

エルピスー希望、あるいは災いー

関西テレビ放送

「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」新春3時間SP

テレビ朝日

日曜ドラマ「ブラッシュアップライフ」

日本テレビ放送網

世界サブカルチャー史 欲望の系譜 シーズン3 日本 逆説の60-90s

日本放送協会 NHKエンタープライズ テレビマンユニオン

映像'23「バッシング 陰謀論と情報戦」

毎日放送

特別賞

「映像の世紀バタフライエフェクト」

日本放送協会

個人賞

長澤まさみ

「エルピスー希望、あるいは災いー」（関西テレビ）の演技、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」（NHK）のナレーション

報道活動部門

新型コロナワクチンの副反応問題に関する調査報道

CBCテレビ

NEWS6 旧統一教会をめぐる調査報道

チューリップテレビ

報道特集「旧統一教会と政治」など旧統一教会をめぐる検証報道

TBSテレビ

NHK 精神医療の実態に迫る一連の調査報道

日本放送協会

ドキュメンタリー素材を平和教材として活用

広島テレビ放送

【QAB】米軍の環境汚染問題に関する2011年からの一連の報道

琉球朝日放送

ラジオ部門

復帰50周年特別番組「オキナワミュージックカンブリア」

エフエム沖縄

講談風大河ラジオドラマ「弁慶記」

FM TANABE

「SBCラジオスペシャル『黒猫』田口史人のレコード寄席～『昭和の校長先生』編」

信越放送

ドキュメント「荻上チキが見たウクライナ～見過ごされる声に耳を傾けて」

TBSラジオ

仲谷一志・下田文代のよなおし堂

RKB毎日放送

ジェーン・スー 生活は踊る

TBSラジオ

RBCiラジオスペシャル「ダニーボーイ・齊藤梯子、ジャズと生きる」

琉球放送

サンドウィッチマン ザ・ラジオショーサタデー

ニッポン放送

DJパーソナリティ賞

安住紳一郎

「安住紳一郎の日曜天国」（TBSラジオ）パーソナリティとして

CM部門

テレビCM

ACジャパン 2022AC全国キャンペーンA「寛容ラブ篇」

AC ジャパン 東急エージェンシー 関西支社 高映企画

大塚製薬 カロリーメイト「狭い広い世界で篇」

大塚製薬 博報堂 catch ENOAD AOI Pro.

サントリーホールディングス 企業 シリーズ 人生には、飲食店がある。「メッセージ篇」「不思議な場所篇」「人と篇」

サントリーホールディングス 電通 電通クリエイティブ X

セールスフォース・ジャパン 企業「失敗の数篇」

セールスフォース・ジャパン 電通 AOI Pro.

東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「生理を、ひめぐとにしない。」

東海テレビ放送 東海テレビプロダクション エキスプレス プラモ 東海サウンド

東海旅客鉄道 企業「会いにいく、が今日を変えていく。」

東海旅客鉄道 電通 ジェイアール東海エージェンシー SUPERMARKET

日清食品ホールディングス 日清焼そばU.F.O.「そろ谷U.F.O.食べたやろ篇」

日清食品ホールディングス 電通 ソーダコミュニケーションズ

日本放送協会 非常用持ち出し袋 シリーズ「日常は、ひょう変する。」

日本放送協会 電通

日本マクドナルド Family Brand 家族といっしょに。「ピクルスのリレー篇」

日本マクドナルド TBWA HAKUHODO Catch コネクション Headlight

ラジオCM

中央軒 企業「記者会軒篇」

中央軒 朝日放送ラジオ ビッグフェイス

ウェブCM

佐賀県競馬組合 佐賀競馬場移転開設50周年事業「おいでやすこが様をうまてなし。」

佐賀県競馬組合 電通九州 casaage

大塚製薬 カロリーメイト「入学から、この世界だった僕たちへ。」

大塚製薬 博報堂 AOI Pro.

日本マクドナルド マックフライポテト「ティロリミックス | Ado『踊』× asmi『PAKU』」

日本マクドナルド 電通 ギークビクチュアズ

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨9本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、5月31日（水）開催『第60回ギャラクシー賞贈賞式』で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社（者）名五十音順に記載。●詳しい結果は6月6日（火）発売の「GALAC」2023年7月号に記載いたしますので、ご覧ください。



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は年度単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第50回（2013年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会が開催され、月間賞が選出されている。他部門も定例会を持ち番組・作品を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年2回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年5月下旬～6月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

- 【テレビ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 10、特別賞 1、個人賞 1
- 【ラジオ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 4、個人賞またはDJパーソナリティ賞 1
- 【CM部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 9
- 【報道活動部門】大賞 1、優秀賞 2、選奨 3
- 【その他】志賀信夫賞 1、フロンティア賞 1、マイベストTV賞グランプリ 1
(上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。)

＜志賀信夫賞＞

放送批評懇談会の発展に寄与した放送評論家・志賀信夫の功績をたたえるために、2009 年度（第 47 回）創設。広く放送界の発展、放送文化の向上に貢献した人物等を表彰する。放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する。

＜フロンティア賞＞

放送界の未来を切り拓く挑戦を果たした番組、仕組み等を顕彰する。2015 年度（第 53 回）創設。

＜マイベストTV賞＞

視聴者の参加により選ばれるテレビ番組賞で、2006 年度（第 44 回）創設。放送批評懇談会選奨事業委員会が候補番組を選定し、これを毎月、放送批評懇談会正会員と「Gメンバー」（視聴者によって構成される放送批評懇談会のオンライン会員）が投票して選出される。年間で最も得票を得たものが「マイベストTV賞グランプリ」として表彰される。

◆沿革◆

- 1963 年度（表彰は 1964 年）ギャラクシー賞誕生、第 1 回。
- 1989 年度 第 27 回、ラジオ部門独立。
- 1993 年度 第 31 回、ラジオ部門に「DJパーソナリティ賞」新設。
- 1995 年度 第 33 回、CM部門設立。
- 2002 年度 第 40 回、報道活動部門設立。
- 2006 年度 第 44 回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。
- 2009 年度 第 47 回、「志賀信夫賞」を新設。
- 2015 年度 第 53 回、テレビ部門にテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。

●放送批評懇談会について：1963 年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CM を顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行っています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

以上